

# 追浜あんず通信

Oppama Anzu Press

第23,24合併号 2022年11月 発行:特定非営利活動法人 アクションおっぱま

## コロナに負けない元気なおっぱま

コロナ感染対策での制限が続く中、NPO法人アクションおっぱまの活動もままならず、我慢の日々でした。しかし、おっぱままつり、ワイ!フェスタの再開、追浜地域のイベント開催により元気をもらいました。今号はその元気を写真により皆様にお届けします。(当法人副理事長 河村啓子)

### ■ おっぱま祭り

3年ぶりに待ちに待っていた追浜銀座通り商店街を歩行者天国にしての「おっぱままつり」が7月17日(日)開催されました。大勢の人たちが見物に訪れ子供も大人も大喜びの一日でした。



### ■ 深浦漁港さかな祭り

2022年の夏も暑い日が続きましたが、夏真っ盛りの7月23日(土)、若布収穫祭で馴染の深浦漁港で「さかな祭り」が追浜活性化委員会主催により盛大に開催されました。

当日は漁師さんたちによる活魚、鮮魚、干物、人気のタコ飯などの販売、キッチンカーでのおっぱま塩焼きそば販売、サメのフライ試食。地元企業(株)マリン・ワーク・ジャパンの水圧実験紹介、よこすか海の市民会議協力の子供たちに人気の貝殻アート等々、盛りだくさんのイベントでした。



## ■ ワイ!フェスタおっぱま 2022

コロナ禍で萎縮気味の生活が続いていましたが、今年は3年ぶりに「Y・フェスタ追浜」が「ワイ!フェスタおっぱま」として生まれ変わり、10月23日(日)会場二か所に分けてそれぞれ工夫を凝らした催しに、一日で約2万人の人々が訪れ楽しみました。

NPO法人アクションおっぱまは実行委員会のメンバーの一員として第三海堡の一般公開で参加しましたが、やはり数えきれない見学者が訪れ、大盛況でした。



## ■ 第66回アイクルフェア開催

元気を取り戻した、追浜の街のもう一つのイベントも再開、夏島グランドに並ぶ横須賀市リサイクルプラザ愛称「アイクル」でのフェアです。ワイ!フェスタの翌週の10月30日(日)の開催となり、また大勢の人が訪れ、NPO法人アクションおっぱまも第三海堡一般公開してお客様をお迎えしました。



## おっぱまはっけん倶楽部の活動報告

### 1 千代ヶ崎砲台跡見学 10月10日(月曜日)スポーツの日

1964年10月10日(土)前日の台風一過、晴天の朝から開かれた、東京オリンピックの記念日「体育の日」今では「スポーツの日」。

はっけん倶楽部のメンバー 11名が久里浜駅から千代ヶ崎砲台、浦賀奉行所跡地を散策、この日も晴ながらスコールのような雨に遭いながら見学してきました。



### 2 おっぱまはっけん倶楽部主催 -第7回おっぱま界限のんびりたのしく ぶらり街歩き-

11月12日(土)おっぱまはっけん倶楽部主催によるおっぱま街歩きイベントが3年ぶりに行われました。朝から上天気の日、一般からの応募者25名で3グループに分かれ、はっけん倶楽部メンバーのガイドの引率で無事に楽しく終えることができました。



(おっぱまはっけん倶楽部事務局担当 村澤醇治)





## 2021年度貝山地下壕見学会の実績

2021年度から始まった貝山地下壕の見学会ですが、コロナウイルスの感染拡大で、日程変更を余儀なくされる回がありました。ホームページで募集する企画ツアーは、7月4日、9月5日、11月7日、2月20日の4回でしたが、9月5日は12月5日に、2月20日は5月8日に変更となりました。

各回とも16人の定員はいっぱいになりましたが、それぞれ若干の欠席者があり、実際の参加者は56人でした。その他に団体として、追浜銀座通り商店会(7月8日)、追浜本町1丁目ゆう遊俱樂部(10月28日)、日吉台地下壕保存の会(3月27日)の見学があり、団体の参加者は37人でした。

2021年度の見学者は合わせて93人です。地下壕という特殊な空間で安全を確保しながらの見学ですので、今後も企画ツアーは2ヶ月に1回、団体は希望に応じてという形で実施します。

参加者の感想を一部ご紹介します。「身近にこ

れほどの戦争遺構があったとは、驚きです。

貝山地下壕は使われる事なく終戦を迎えたので、使用目的が判然としない場所も多く、ミステリアスな一面があり、面白いツアーでした。第三海堡も含め、戦争が如何に無意味なものかを象徴する遺構が二つ、多くの人に見てもらいたいものです。ガイドさんの説明は分かりやすく、丁寧であったと思います。また、安全サポーターさんが付いてくれたので、安心して見学できました。高齢者が多いので、無事にツアーを終えられ、良かったです」(70代男性追浜在住)。

他に、多くの方

が地下壕の公開範囲を広げるよう希望していました。(昌子 住江 当法人理事長)



## 東俊賢さん(元台湾少年工)貝山地下壕訪問

現在台湾・台北市に住む東俊賢さん(92歳)は、1944年から終戦まで、横須賀市追浜にあった海軍航空技術廠(以下「空技廠」)で「台湾少年工」(以下「少年工」)として働いていました。講演等で来日した機会に貝山地下壕を見学したいとの希望が伝えられ、10月28日(土)貝山地下壕ガイドグループ有志でお迎えしました。

ご高齢のため地下壕は入口から中を見ていただくこととし、壕外の倉庫で遺物を見ながらお話を伺いました。遺物の中には空技廠本庁舎正面にあった紋章や海軍の食器等があり、92歳とは思えないほどしっかりした口調で、具体的な作業や生活の隅々について懐かしそうに話されました。小さい頃から飛行機や機械いじりが大好きだったそうで、少年工には募集に応じて採用され、空技廠ではガス溶接の技術を学んで、「桜花」(ロケット推進の特攻機)、「秋水」(ロケット局地戦闘機)の試作に携わりました。十数人いた少年工の中で、こうした試作に関わったのは東さん1人だったそうです。秋水の試験飛行は見学を許され



たものの、上昇した機体が墜落する瞬間を目撃したことは大きな衝撃でした。

空技廠で残業のないときは、穴掘り(地下壕掘削)をさせられたとのことですが、「もっと広かった」そうで貝山地下壕ではなかったようです。

東さんは台湾に戻られた後師範学校に入学し、新たな人生を切り開かれました。戦中には厳しい、辛い思いも沢山されていますが、自身の経験を通して戦争の実相を私たちに伝えようとする姿には心打たれました。東さんを紹介し、来訪にも同行された神奈川新聞山元信之記者から、翌29日記念艦「三笠」講堂での講演会も無事終了した東さんが、貝山地下壕の見学に満足されていたとの連絡がありました。東さんの来訪は私たちにとっても感慨深い1日となりました。



東俊賢さんの自伝は下記サイトになります。

パスワードは「azum」です。

<https://45.gigafile.nu/1014-bcf2909f1078841610080b47d457913a5>

(当法人理事長 昌子住江)



## 2021年度の活動と2022年度通常総会の報告

2021年度もコロナ禍に翻弄された1年でした。前年度に引き続き、活動が制限され財政上困難な状況のため、会員、会員外の皆様にご寄付をお願いいたしました。おかげさまで総額204,000円をお寄せいただき、『東京湾第三海堡物語』の増刷、『貝山地下壕 見学の手引き』の発行ができました。ここに厚く御礼申し上げます。

2021年度に始まった貝山地下壕見学は2ヶ月に1回の募集でしたが、コロナ禍のため2回(9月、2月)日程を延期せざるを得ませんでした。それでも毎回早々に定員一杯となり、参加者へのアンケートも概ね好評でした。ただ、始めたばかりですので不備な点をご指摘いただくこともあり、ガイドグループで検討の上改善を重ねております。

第三海堡一般公開(毎月1回、第一日曜日)でも、コロナ禍による中止が9月、2月、3月の3回と雨天中止が1回(7月)で、年間の来場者は314人でした。またY・フェスタ追浜やアイクルフェアも開催されなかったため、地域イベント協賛公開もありませんでした。

2022年度通常総会は、6月10日(金)に守谷ノ間(関東学院大との空家再生プロジェクト)

を会場として開催しました。定足数は、正会員33(個人26、団体7)の過半数で17のところ、出席者数23名(内委任状8名、書面評決者9名)で成立、今回は一般正会員の参加を呼びかけたところ1名(橋間元徳さん)が出席され、意見交換することができました。

総会では、2021年度事業報告書、同活動計算書、同貸借対照表、同財産目録、同監査報告、2022年度活動計画書、同活動計算書がいずれも異議なく承認されました。

2022年度の活動は、「地域資源の保存・活用に関する事業」(第三海堡の公開、貝山地下壕の見学等)が中心になりますが、ご要望の多かった『追浜トンネル物語』の増刷、追浜の魅力を発信する資料データの作成(「おっぱま地域まるごと博物館」の一環)を進めたいと考えています。

今年もまた「追浜あんず通信」は合併号の発行となりますが、早く活動が元に戻り通常の発行となることを願っております。今後とも、みなさまのご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

(当法人理事長 昌子住江)



## トンネル物語増刷

一冊400円

こみゆに亭と  
第三海堡にて販売中



※来年度の貝山地下壕見学予約日は当法人HPでご確認ください。

追浜あんず通信第23,24合併号 2022年11月発行  
発行 特定非営利活動法人アクションおっぱま  
発行人 昌子住江  
編集 NPO法人アクションおっぱま編集委員会

